

再意見提出フォーマット

再意見提出者	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
--------	------------------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望(2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど)	
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題(周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備)	・具体的な割り当て希望、国際的な整合性(ハーモナイズ)に関する考え方について別紙1に記載。
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	

意見募集において寄せられた意見に対する意見

No.	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容
47	ソフトバンクモバイル株式会社、等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弊社は、KDDI 殿とともに多くの稼動及びコスト、並びに 10 年以上もの時間をかけて 800MHz 帯再編(2G→3G)を進めて参りました。こうした努力の末、2012 年には、ようやく 800MHz 帯再編が完了するところです。 ・ 弊社は、2012 年 7 月から 800MHz 帯 15MHz×2 運用することを前提として設備設計をしており、ご提案に示されるような弊社割り当て帯域運用制限への対応は、非常に困難です。 ・ また、上記の運用制限に関し、弊社割り当て帯域との間の所要ガードバンド幅を 10MHz とされていますが、技術的根拠が必要と考えます。別紙2に、ご提案の 900MHz 帯(3GPP Band8)における携帯電話端末用フィルタ特性の一例を示します。3GPP Band8 送信フィルタ特性は、国内 800MHz 帯端末受信帯域を考慮した特性とはなっていないため、当該受信帯域への干渉の影響が懸念されます。このフィルタ特性は一例であります、実際の所要ガードバンド幅については、今後、情報通信審議会にて詳細な技術的検討をした上で判断する必要があると考えます。
40	クアルコムジャパン株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 900MHz 帯に関するご提案では、弊社割り当て帯域との間のガードバンドは 5～10MHz という前提と理解しましたが、技術的根拠が必要だと考えます。別紙2に、ご提案の 900MHz 帯(3GPP Band8)における携帯電話端末用フィルタ特性の一例を示します。3GPP Band8 送信フィルタ特性は、国内 800MHz 帯端末受信帯域を考慮した特性とはなっていないため、当該受信帯域への干渉の影響が懸念されます。このフィルタ特性は一例であります、実際の所要ガードバンド幅については、今後、情報通信審議会にて詳細な技術的検討をした上で判断する必要があると考えます。
58	日本エリクソン株式会社、等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 900MHz 帯に関するご提案では、弊社割り当て帯域との間のガードバンドは 5～10MHz という前提と理解しましたが、技術的根拠が必要だと考えます。別紙2に、ご提案の 900MHz 帯(3GPP Band8)における携帯電話端末用フィルタ特性の一例を示します。3GPP Band8 送信フィルタ特性は、国内 800MHz 帯端末受信帯域を考慮した特性とはなっていないため、当該受信帯域への干渉の影響が懸念されます。このフィルタ特性は一例であります、実際の所要ガードバンド幅について

		ては、今後、情報通信審議会で詳細な技術的検討をした上で判断する必要があると考えます。
--	--	--

周波数検討ワーキング 再意見提出 別紙1

2010年7月2日

株式会社NTTドコモ

1 具体的な割当希望

(1) 周波数帯:

- ・ITUが特定したIMTバンドのうち、2010年代に割り当てが可能と思われる、700/900MHz帯、1.7GHz帯、3～4GHz帯(*)からの割り当てを希望

(2)～(5) 下表に記載

	(2)周波数幅	(3)通信方式	(4)割当希望時期	(5)利用目的
1.7GHz帯	5MHz×2 (理由)現在の高トラフィックエリアでの対策に活用するため	当面は、3G(HSPA含む)	可及的速やかに (理由)急増するデータトラフィック対策が必要であり、ユーザーの利便性を損なわないために、可及的に速やかな割り当てを希望	当面は、都市部等の高トラフィックエリアが中心
700/900MHz帯	少なくとも15MHz×2 (理由)今後主流となるLTE方式において、100Mbpsの高速データ通信サービスを提供するため	LTE	2012年、遅くとも2015年までに使用開始できるような割当を希望 (理由)急増するデータトラフィック対策が必要であり、ユーザーの利便性を損なわないために、早期の割り当てを希望	全国展開
3～4GHz帯(*)	40MHz×2以上 (理由)2010年代後半に実現するIMT-Advanced方式で、1Gbpsの超高速データサービスを提供するため(標準化で検討されている最小帯域幅)	IMT-Advanced	2010年代後半(2015年ごろ)に使用開始できるような割り当てを希望 (理由)IMT-Advancedの標準化スケジュールを勘案すると、2015年ごろに商用展開が可能	当初は、都市部等の高トラフィックエリアでの導入を想定。順次エリア拡大を図る。

(*)ITUの特定帯域は3.4～3.6GHzまでであるが、総務省殿試算の所要周波数幅においても、2020年には1.9GHz幅の帯域が必要とされており、周波数再編アクションプランに記載のとおり、3～4GHz帯を割り当て候補として幅広く検討することを希望

2 国際的な整合性(ハーモナイズ)に関する考え方

- 弊社は、ユーザ様の利便性をより重視するとの立場から、電波再編を伴わず、早急に周波数割り当てが可能な700/900MHzをペアとする周波数割当が現実的と考えております。

(理由)

- 弊社は、携帯電話システムにおいて、国際的な整合性(ハーモナイズ)を取った周波数割り当てが担保されることは、重要なことであると考えております。
- しかしながら、今回の700/900MHz帯割り当て検討において、国際的な整合性を取った周波数割り当てを実現するためには、多数の既存システムの移行を伴う周波数再編を行う必要があります。
- 弊社は、800MHz帯の周波数再編における経験から、より多くの関係者が絡む700/900MHz帯の再編には、10年以上の時間がかかると想定しております。
- 従って、急増する携帯電話トラフィックへの対策を行い、ユーザ様の利便性に十分応えることができるように、早期の周波数割り当てを実現することがより重要であると考えます。
- また、3Gシステム以降の携帯電話端末には、既に2GHz帯等の国際的にハーモナイズされた周波数帯が標準搭載されています。追加帯域である700/900MHz帯がハーモナイズされない場合でも、直ちに国際ローミングの観点からの問題が発生するということではありません。

NTT
docomo

**周波数検討ワーキング
再意見提出 別紙2**

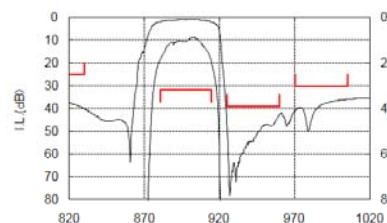
2010年7月2日

株式会社NTTドコモ

900MHz帯における携帯電話端末用フィルタ特性の一例

3GPP Band8送信フィルタ特性(下図赤線)は、3GPP Band18, 19(国内800MHz帯)端末受信帯域を考慮した特性となっていないため、干渉の影響が懸念されます。所要ガードバンド(GB)幅について、今後、情報通信審議会において、精緻な検討が必要と考えます。

3GPP Band8送信フィルタ特性は、3GPP Band18, 19(国内800MHz帯)端末受信帯域を考慮したシャープな特性になっていないため、干渉の影響が懸念される。

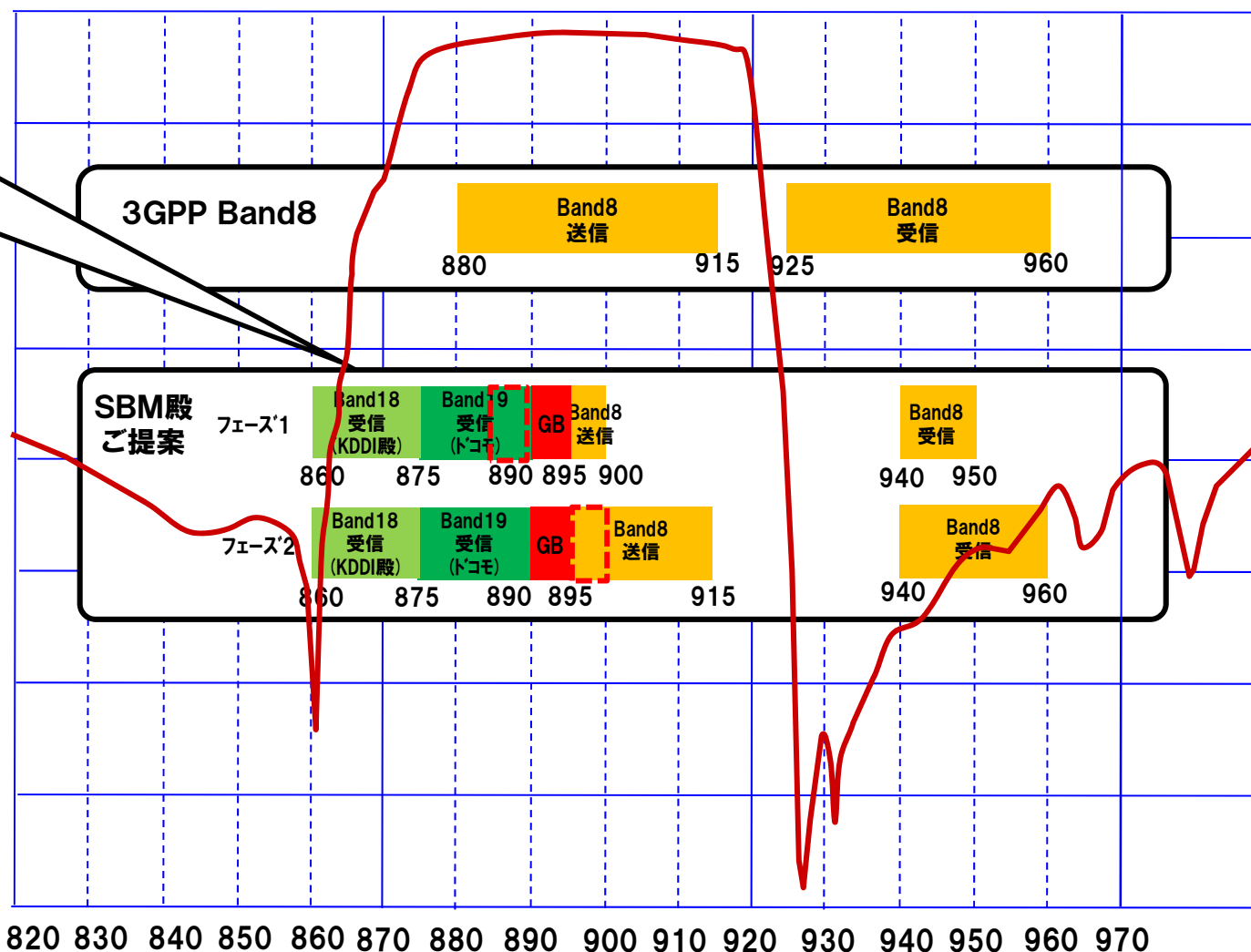


3GPP Band8送信フィルタ特性

(村田製作所SAYFP897MCA0B00)

<http://search.murata.co.jp/Ceramy/image/img/PDF/JPN/SAYFP897MCA0B00.pdf> より転載

3GPP Band8送信フィルタ特性





NTT
docomo